

## 顕微鏡を使ったメダカの卵の観察

第5学年の指導内容「動物の誕生」において、メダカの卵を飼育したり、観察したりするときのコツを紹介します。双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡がなくても、顕微鏡で卵の観察が簡単にできます。また、メダカの卵の成長と誕生の様子を教材にしました。卵の観察をしながら、成長の様子を確かめてみましょう。



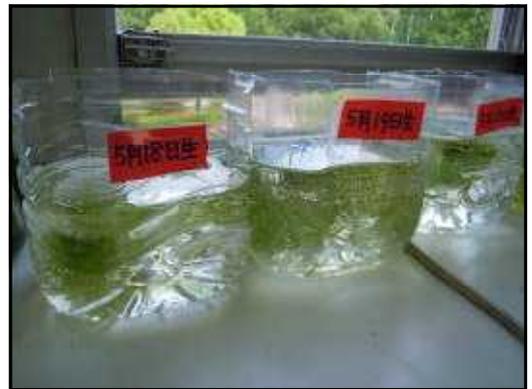
### 材料と準備物

#### 材料

- ペットボトル
- ビニールテープ

#### 準備物

- ハサミ
- マジック
- (観察用)
- シャーレ
- 顕微鏡



### 飼育方法

- ①ペットボトルを底から10 cm程度の高さに切り、卵と水草を一緒に入れる。水は、水道水でよい。(多少の塩素が入っている方が、卵が腐りにくい)
- ②ペットボトルには、ビニールテープで採卵した日を記入しておく。(卵の成長や生まれるまでのおよその日数が分かる)
- ③水は、2～3日に一度、ペットボトルの1/3程度をかえるようにする。

### 留意点

- メダカが卵からかえった場合は、水道水ではなく、1～2日置いた水がよい。
- 気温などの環境によっても異なるが、約10日ほどで孵化する。  
稚魚は、成魚に食べられる場合があるので、1 cm程度の大きさになるまで、卵と同様にペットボトルで飼育する。

### 観察方法

- ①シャーレに少しの水と卵を入れる。(水は、卵が浸かる程度)
  - ②顕微鏡の倍率を下げ(50倍)、のせ台のクリップを外しておく。
  - ③シャーレをそのままのせ台に置き、観察する。
- ※顕微鏡用デジカメスタンド(p.13 参照)を使用すれば、写真や動画を撮ったり、テレビに映したりできるので、卵の血流や心臓の動きまで、クラス全体で見ることができます。

